

平成30年12月20日

北栄町議会
議長 飯田 正征 様

北栄町議会民生経済常任委員会
委員長 油本 朋也

民生経済常任委員会調査報告書

本委員会は、次の事件について先進地の調査を終了したので、会議規則第77条の規定により調査結果を次のとおり報告する。

記

1 調査事件

- (1) 目的地となる道の駅のありかたについて
調査地 島根県出雲市 道の駅キララ多伎
- (2) 目的地となる道の駅のありかたについて
調査地 山口県萩市 道の駅萩しーまーと
- (3) 地域自主組織による課題解決型の住民自治について
調査地 島根県雲南市役所

2 調査期間

平成30年10月10日（水）から12日（金）までの3日間

3 概要および調査結果

- (1) 道の駅キララ多伎 平成10年4月開業
 - *日本海に面した国道9号線沿いにある道の駅。
 - *現在は出雲市の第3セクターの(株)多伎振興が指定管理者として施設を管理運営しているが、今後出雲市から株式を買い取り民間化へ。道の駅の随意契約更新時である平成32年4月に指定管理者に再応募予定。

- *山陰道開通後は来客数が40%減の予想。
 - ・年間利用者：45万人（トイレ利用者含む全利用者は150万人）
 - ・駐車場：普通車155台、大型車8台、身障者用4台、EV充電設備1基
 - ・延床面積：1,611㎡、総面積：28,315㎡
 - ・建設費：約17億円（国県補助金1.2億円）
- 主力商品：地元多伎町特産のいちじくを使用したジャム、ワイン、ソフトクリームが中心
- 年間売上：約4.4億円（平成29年度）
 - ・土産物：18,000万円
 - ・たこ焼、ソフトクリーム：6,200万円（たこ焼4,000万円）
 - ・ベーカリー：13,000万円
 - ・レストラン：3,500万円
 - ・カフェ：1,000万円
- すぐ裏に海水浴場（キララビーチ）。年間利用者9万人
 - ・海岸に栈敷席、駐車場無料、ライフセーバー常駐。
 - ・日本海に沈む夕日は「日本の夕日百選」に選ばれる。
 - ・広島県の三次、庄原からの日帰り客中心（車1時間圏内）。
- 8名で開業。内6名は(株)イオン出身者
- 小林駅長が(株)イオンより公募で就任。以来20年間支配人を兼務。
社員教育は(株)イオンの人事本部が協力
- PRは経費を節約
 - ・山陰放送ラジオの天気予報コーナーに出演。
 - ・山陰中央新報を利用。
 - ・SNSの積極的な利用。
 - ・県外でのイベントで「出雲海鮮たこ焼き」の実演販売。
 - ・広島テレビで県内の道の駅合同キャンペーンを年2回。

(2) 道の駅萩しーまーと 平成13年4月開業

- *萩港に水揚げされた魚介類や近郊の農産物を販売する生鮮市場。地産地消の拠点。
- *「近者悦・遠者来」を掲げ地元市民を中心とした庶民の市場を目指す。開業前13店舗で組織する組合を立ち上げ道の駅の建設に参加。
 - ・年間利用者：130万人 平日2,000人、土日祝日5,000人～6,000人
 - ・駐車場：普通車80台、大型車4台、身障者用4台、EV充電設備1基

- ・建物面積：1, 424 m²、敷地面積：7, 420 m²
- ・建設費：約5億円（国県市の補助金2.3億円、残りは組合負担）
- 年間売上：約9億円（その他1億円は首都圏で売上）
- 魚介類は9割、野菜を含め7～8割が萩産。年間約5億円を萩市から購入。買い支えにより萩市に貢献。
- 販売方法・・・客層の多くは50代～70代の一人暮らしの方。
 - ・名前を知らない魚を説明しながら無料試食などの対面販売。
 - ・1つの魚種の刺身ミニパックなど少量の商品づくり。
 - ・地元高校生の開発した商品販売（年間売上200～300万円）。
 - ・鮮魚売場で買った魚を館内に持ち込み客の好みに調理する勝手御膳。テレビで紹介される（あさいち、ズームイン朝）。
- 情報発信・・・広告費なしで宣伝。
 - ・NHK山口で週1回5分間、萩の魚紹介を年間50回。6年間継続。
 - ・地元のケーブルテレビで毎週5分間の放映に東京、大阪から問い合わせあり全国レベルに。
 - ・旅番組、カンブリア宮殿で放映。
 - ・旅雑誌にも無料で掲載。
 - ・テレビ・新聞・雑誌に年間140本（年間約3億円の無料パブリシティー）。
 - ・来客は県内60～70%（市内30～40%）、県外30～40%。島根、岡山、広島など車で1時間圏内が中心。
- 食の拠点
 - ・月1回の無料試食イベントを新聞社と提携。
 - ・年3回隣接する萩漁港で試食会（3月、7月は10,000人～15,000人、10月は35,000人）など行政主催のイベントに伴って集客。行政と一緒に公的なイメージで仕事がしやすい。
 - ・子供に魚の捌き方教室。1匹25円～50円。
 - ・館内で市内全般の観光案内。温泉等のチケット販売。
- 魚のブランド化
 - ・真フグ、アジ、キンタロウ等6種類。
 - ・魚の新メニューを考案しメディアに取り上げてもらう。
 - ・都市部に営業展開し魚価を上げる。真フグは1kg700円が1,000円台へ。底引き網の雑魚だったキンタロウは、有名シェフの監修により帝国ホテルでフランス料理の食材に使用され、1箱約250匹2,900円が4,000円～5,000円へ。
- 販路拡大
 - ・東京では量販店ではなく紀伊国屋などの高級スーパーへ。

- ・デパートの萩特産品フェアに出展。経費は萩市の支払い。
- ・地元出身者経営のレストランへ売込み。首都圏で客席約20程度の店5軒～6軒。
- ・築地市場に1箱3,000円程度の少量多種の魚を空輸。朝4時までにはせりにかかった魚を全日空初便で山口宇部空港から羽田へ。12時～13時に店頭で並ぶ。外販1億円の主力。

○人材育成

- ・地元をはじめ他県の自治体からも職員を受け入れ、行政職員の研修を行っている。
- ・初代駅長は全国公募により(株)リクルートの出身者。現在は全国で道の駅経営の講演活動。現地へは週1日程度。

(3) 雲南市

*人口39,715人・面積553.18km²・高齢率37.0% (平成29年4月)。平成16年6町村で新設合併

- 市全体を自治会の枠を超えたいくつかの地域に分割し、自主組織を形成。小規模でも地域の総力を結集し、地域の課題を自ら解決できる様々な機能を持った住民自治の仕組み作りを目指す。
 - ・住民一人ひとりの力を発揮する仕組み
 - ・自治の原点を取り戻す仕組み
 - ・参加だけでなく参画につながる仕組み
- 自治会を含んだ広域的組織
 - ・自治会だけではできないことを補完し支えていく。

【 小規模多機能自治組織と自治会の違い 】

小規模多機能自治組織	：	自治会・町内会・区
より広域的な区域	：	自治会等の区域
一人ひとりが中心	：	世帯主が中心
行事より活動が多い	：	活動より慣習的行事が多い
スケールメリット発揮	：	コンパクトでまとまりやすい
常勤スタッフ体制あり	：	常勤スタッフ体制なし

- 人口減少や高齢化により自治会だけでは不可能になった行事や交流活動・買い物支援など自治会単位では解決が困難なことを克服。
 - ・JA空き店舗を産直市場にし、地域の人々のサロンとなる。
 - ・中学2年生が毎月手紙を書き、自治会福祉員が町内75歳以上の一人暮らし高齢者に配布する見守り活動。

- ・腰・膝の痛みを和らげる東大医学部監修の体操普及推進事業。
- ・地域唯一の小売店の撤退をうけ交流センター内に店舗開設。800品目の豊富な品揃え。サロン機能あり。送迎無料。
- ・廃校になった小学校を交流センターに改修。旅館業を取得し宿泊、食事提供機能を付加。宿泊者が年々増加。
- ・市水道局と委託契約を結び、検針を利用し毎月全戸訪問。

4 所感

(1) (2)

- ・道の駅の新設や再整備においては、民間から既成概念にとらわれず自由な発想で経営手腕を発揮できる人材を駅長にすべきことは避けて通れない。近隣市町に同様の道の駅が立ち並ぶ中で、収益を上げ生き残っていくためには、かなりハイレベルな人材を登用すべきである。経営感覚のない行政職員が駅長では経営が危ぶまれる。
- ・休憩だけではなく、目的地となる道の駅を目指すことが重要。
- ・計画段階から道の駅の建設に関与できる出店希望者を募集すべき。
- ・社員教育も徹底すべき。
- ・地元住民の利用が重要。リピート率の高い、車で1時間以内のファン客を獲得するべき。観光客だけでは足りない。
- ・地元の特産品のアピールが不可欠。そこでしか手に入らないオンリーワンの存在が大切。
- ・特産品のブランド化による高収益の確保。
- ・食の魅力が大切。そこでしか食べられない名物料理、特産物の加工食品などの開発。
- ・販路の開拓、その拡大のための営業力が重要。
- ・経費をかけない宣伝のため、メディアの有効活用などの工夫。

(3)

- ・小規模多機能自主組織は、人口減少と高齢化問題を抱える全ての自治体にとって遠からず直面する課題である。この事例を本町の参考にして取り組むべき。
- ・本町がこの「小規模多機能自治」に取り組むなら「住民自治の仕組み」について理解し、自治会の枠を超えた地域自主組織の立ち上げから始めるべきである。

平成 30 年度北栄町議会 委員会行政調査報告書

1	日 時	平成 30 年 10 月 10 日 (水) ～12 日 (金) 3 日間	
2	調 査 地	島根県出雲市多伎町、山口県萩市、島根県雲南市	
3	調 査 内 容	(内 容)	(場 所)
		(1) 目的地となる道の駅のありかたについて (2) 目的地となる道の駅のありかたについて (3) 地域自主組織による課題解決型の住民自治について	道の駅キララ多伎 (出雲市多伎町) 道の駅萩シーマーと (山口県萩市) 島根県雲南市
4	概要及び調査結果	<p>(1) 道の駅キララ多伎 平成 10 年 4 月開業 日本海に面した国道 9 号線沿いにある道の駅。 年間利用者：45 万人 (トイレ利用者含む全利用者は 150 万人) 駐車場：普通車 155 台、大型車 8 台、身障者用 4 台、EV 充電設備 1 基 延床面積：1,611 m²、総面積：28,315 m² ○主力商品：地元多伎町特産のいちじくを使用したジャム、ワイン、ソフトクリームが中心 ○年間売上：約 4.4 億円 (平成 29 年度) ・土産物：18,000 万円 ・たこ焼、ソフトクリーム：6,200 万円 (たこ焼 4,000 万円) ・ベーカリー：13,000 万円 ・レストラン：3,500 万円 ・カフェ：1,000 万円 ○すぐ裏に海水浴場 (キララビーチ)。年間利用者 9 万人 ・海岸に栈敷席、駐車場無料、ライフセーバー常駐 ・広島県の三次、庄原からの日帰り客中心 (車 1 時間圏内) ○小林駅長が (株)イオンより公募で就任。以来 20 年間支配人を兼務。社員教育は (株)イオンの人事本部が協力 ○PR はなるべく経費を節約 ・山陰放送ラジオの天気予報コーナーに出演 ・山陰中央新報を利用</p>	

- ・ SNS の積極的な利用
- ・ 県外でのイベントで「出雲海鮮たこ焼き」の実演販売
- ・ 広島テレビで県内の道の駅合同キャンペーンを年 2 回

(2) 道の駅萩しーまーと 平成 13 年 4 月開業

萩港に水揚げされた魚介類や近郊の農産物を販売する生鮮市場。地産地消の拠点。

年間利用者：130 万人 平日 2000 人、土日祝日 5000～6000 人
 駐車場：普通車 80 台、大型車 4 台、身障者用 4 台、EV 充電設備あり

建物面積：1,424 m²、敷地面積：7,420 m²、

○年間売上：約 9 億円（その他 1 億円は首都圏で売上）

○魚介類は 9 割、野菜を含め 7～8 割が萩産。年間約 5 億円を萩市から購入。買い支えにより萩市に貢献。

○販売方法・・・客層の多くは 50～70 代の一人暮らしの方。

・ 名前を知らない魚を説明しながら無料試食などの対面販売。

・ 1 つの魚種の刺身ミニパックなど少量の商品づくり。

・ 地元高校生の開発した商品販売（年間売上 200～300 万円）

・ 鮮魚売場で買った魚を館内に持ち込み客の好みに調理する勝手御膳。テレビで紹介される（あさイチ,ズームイン朝）

○情報発信・・・広告費なしで宣伝

・ NHK山口で週 1 回 5 分間、萩の魚紹介を年間 50 回。6 年間継続

・ 地元のケーブルテレビで毎週 5 分間の放映に東京、大阪から問い合わせあり全国レベルに。

・ 旅番組、カンブリア宮殿で放映。

・ 旅雑誌にも無料で掲載

・ テレビ、新聞、雑誌に年間 140 本（年間約 3 億円の無料パブリシティー）

・ 来客は県内 60～70%（市内 30～40%）、県外 30～40%。島根、岡山、広島など車で 1 時間圏内が中心

○食の拠点

・ 月 1 回の無料試食イベントを新聞社と提携。

・ 年 3 回隣接する萩漁港で試食会（3 月, 7 月は 10000～15000 人 10 月は 35000 人）行政主催のイベントに伴って集客。行政と一緒にだと公的なイメージで仕事がしやすい。

・ 子供に魚の捌き方教室。1 匹 25～50 円

・ 館内で市内全般の観光案内。温泉等のチケット販売

○魚のブランド化

- ・真フグ、アジ、キンタロウ等 6 種類
- ・魚の新メニューを考案しメディアに取り上げてもらう。
- ・都市部に営業展開し魚価を上げる。真フグは 1 kg 700 円が 1000 円台へ。底引き網の雑魚だったキンタロウは有名シェフの監修により帝国ホテルでフランス料理の食材に使用され、1 箱約 250 匹 2900 円が 4000 円～5000 円へ。

○販路拡大

- ・東京では量販店ではなく紀伊国屋などの高級スーパーへ。
- ・デパートの萩特産品フェアに出展。経費は萩市の支払い。
- ・地元出身者経営のレストランへ売込み。首都圏で 20 席程度の店 5～6 軒。
- ・築地市場に 1 箱 3000 円程度の少量多種の魚を空輸。朝 4 時までにせりにかかった魚を全日空初便で山口宇部空港から羽田へ。12～13 時に店頭に並ぶ。外販 1 億円の主力。

○人材育成

- ・市職員を受け入れ、一定期間営業などを経験の研修の後市へ返す。
- ・初代駅長は全国公募により(株)リクルートの出身者。現在は道の駅経営等の講演活動。現地へは週 1 回の割で出社。

(3) 雲南市

人口 39,032 人・面積 553.2 km² (平成 27 年)

平成 16 年 6 町村で新設合併

○市全体を自治会の枠を超えたいくつかの地域に分割し、自主組織を形成。小規模でも様々な機能を持った住民自治の仕組み作りを目指す。

- ・住民一人ひとりの力を発揮する仕組み
- ・自治の原点を取り戻す仕組み
- ・人口減、少子高齢化にも対応する仕組み

○自治会を含んだ広域的組織

- ・自治会だけではできないことを補完し支えていく

【 小規模多機能自治組織と自治会の違い 】

小規模多機能自治組織 : 自治会・町内会・区

より広域的な区域 : 自治会等の区域

一人ひとりが中心 : 世帯主が中心

行事より活動が多い : 活動より慣習的行事が多い

スケールメリット発揮 : コンパクトでまとまりやすい

常勤スタッフ体制あり : 常勤スタッフ体制なし

		<p>○人口減少や高齢化により自治会だけでは不可能になった行事や交流活動・買い物支援など自治会単位では解決が困難なことを克服。事例として・・・</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ J A空き店舗を産直市場にし、地域の人々のサロンとなる。 ・ 中学2年生が毎月手紙を書き、自治会福祉員が町内75歳以上の一人暮らし高齢者に配布する見守り活動。 ・ 腰・膝の痛みを和らげる東大医学部監修の体操普及推進事業 ・ 地域唯一の小売店の撤退をうけ交流センター内に店舗開設。800品目の豊富な品揃え。サロン機能あり。送迎無料。 ・ 廃校になった小学校を交流センターに改修。旅館業を取得し宿泊、食事提供機能を付加。宿泊者が年々増加。
所 感		<p>(1) (2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 道の駅の新設や再整備においては、民間から既成概念にとらわれず自由な発想で経営手腕を発揮できる人材を駅長にすべきことは避けて通れない。近隣市町に同様の道の駅が立ち並ぶ中で、収益を上げ生き残っていくためには、かなりハイレベルな人材を登用すべきである。経営感覚のない行政職員が駅長では経営が危ぶまれる。 ・ 社員教育も徹底すべきである。 ・ 周辺の競合する商業施設を徹底調査し、チラシの一枚まで精査することも重要だ。 ・ 地元住民の利用が重要。リピート率の高い、車で1時間以内のファン客を獲得するべき。観光客だけでは足りない。 ・ 地元の特産品のアピールが不可欠。そこでしか手に入らないオンリーワンの存在が大切。 ・ 食の魅力が大切。そこでしか食べられない名物料理、特産物の加工食品などの開発。 ・ 特産品のブランド化による高収益の確保。(例えば大栄西瓜) ・ 販路の開拓、その拡大のための営業力が重要。 ・ 経費をかけない宣伝のための、メディアの有効活用。 <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小規模多機能自主組織は、人口減少と高齢化問題を抱える全ての自治体にとって遠からず直面する課題である。 ・ 本町もこの事例を参考に必要に応じてできることから取り掛かるなど、将来のために学んでいくべきである。

北栄町議会議長 飯田 正 征 様

北栄町議会 民生経済常任委員会委員 野田 秀樹

平成30年度北栄町議会 委員会行政調査報告書

1	日 時	平成30年10月10日～12日 3日間	
2	調 査 地	島根県出雲市多伎町、山口県萩市、島根県雲南市	
3	調 査 内 容	(内 容)	(場 所)
		(1) 目的地となる道の駅のありかたについて	道の駅キララ多伎 (島根県出雲市多伎町)
		(2) 目的地となる道の駅のありかたについて	道の駅萩シーマー と (山口県萩市)
		(3) 地域自主組織による課題解決型の住民自治について	島根県雲南市
4	概要及び 調査結果	道の駅キララ多伎 オープン : 平成10年 年間集客数 : 150万人 (レジカウント数=45万人) 年間高売上月 : 5月, 8月, 9月, 10月, 3月 全国人気番付 : 5位/1140道の駅 (全国) 現在の駅長 : 小林常務 (イオン) 4月に一般公募 ※ グループの中で、道の駅本体・キララベーカーリーは黒字だが、グループ内のマリンタラソ (滞在型施設・プール付) が大赤字のため道の駅の利益から毎年補填。 夏の海水浴シーズンは、県内と広島を中心とした海水浴客が9万人訪れる。そのため、鳥取県の皆生海岸に協力を仰ぎ、ライフセーバーを導入。 山陰自動車道が開通した場合、多伎インターで降りてこなければ利用できない。予想として客数が40%減になると予想。 実際には、今の第三セクターの方が良いのだが行政側にすれば民営化はしかたがないと、思われる。 平成31年度末に完全民営化を目指し、32年度4月から民営化となる予定。	

道の駅萩しーまーと

オープン : 平成13年

年間集客数 : 130万人 (萩の年間観光客数 : 140万人)

年間売上額 : 9億円

初代駅長 : 全国より一般公募 (100人に絞り、面接選考)

現在の駅長 : 発足当時のスタッフで、元観光協会職員)

※ 「近者悦・遠者来」を掲げ地元市民を中心とした庶民市場を目指す。発足前に13店で組織する組合を立ち上げ道の駅建設にも参加。(13店舗は発足当時のままだが、発足直前に退会したレストラン有り。)

商品及び、レストラン等の食材は80%が地元産。出口調査をして、客の地元を聞き取り調査をしている。

地元地域及び産官学協働体制の中核的役割をはたしている。地元、山口と隣県の広島テレビ局・ラジオ局・旅と食の雑誌社とも協力体制に有り安価にて広報活動をしている。

現在の山口 泉駅長は、たびたびテレビ出演もしている。「道の駅萩しーまーと」のピーアールの為。

ここ近年、他県の自治体 (行政) より職員を受け入れて研修も行っている。

雲南市 (小規模多機能自治による住民主体のまちづくり)

小規模多機能自治の仕組み

規模 : 概ね (小) 学校区別に組織

機能 : 分野を横断し統合

仕組み : 住民の参画・協働

特徴として、協 (総) 働の仕組みとして市民一人ひとりの力を発揮し自治の原点を取り戻すため参加だけではなく、参画につながる仕組み。

全域を対象に、自治体内の分権を構築し、人口減少・少子高齢化にも対応する仕組み。各自治体とも、独自の発想により自立を目指し活動している。地域の総力を結集し地域課題を自ら解決。

地域総力を発揮するため、1世帯1票ではなく、すべての事に関して住民1人1票 (中学生以上) として自らの責任により主体的に関わる。

但し、全国の地方都市と同じで、人口減は、避けて通れなく今後、継続していく事が課題である。

4	概要及び 調査結果	<p>道の駅について</p> <p>運営は、やはり駅長も含めて民間でなければ、破たんすると思われる。建設前から、出店希望者が参加して、道の駅建設に関わるべきだ。</p> <p>できれば、24時間営業のコンビニエンスストアや、ガソリンスタンド、ドラッグストア等も参加してもらい、地元産の食材・野菜・果物等の販売をする。</p> <p>目的地となる道の駅を目指すことが1番であり、今後も十分検討することが必要。</p> <p>地域自主組織による課題解決型の住民自治について</p> <p>現在の北栄町を小学校区に分けても合併前の旧町になるだけで、雲南市の自治組織は参考になることもあるが、難しいと思う。</p>
5	所 感	

平成30年北栄町議会 委員会行政調査報告書

1	日 時	平成30年10月10日～12日	2泊3日
2	調 査 地	(1) 島根県出雲 道の駅 キララ多岐 (2) 山口県萩 道の駅 しーまーと (3) 島根県雲南市 市役所	
		(内 容)	
3	調 査 内 容	(1) 島根県出雲市 道の駅キララ多岐、道の駅のあり方 (2) 山口県萩市 道の駅 しーまーと、道の駅のあり方 (3) 雲南市、小規模多機能自治による、住民主体のまちづくりについて	
4	概要及び調査結果	<p>道の駅 きらら多岐 株、多岐振興) 社長は行政の0Bで、支配人はイオンから、社員教育はイオンの協力を得た、旧多岐町の第3セクター、現在は出雲市の第3セクター、数年後には民営化へ(出雲市、出雲農業協同組合、多岐商工会、JFしまね等が主株主) 事業内容は、道の駅を含め4施設を指定管理者 主要販売商品は特産のイチジクを使用した商品、たこ焼き、パン類など多い。 ラーメン工房(海)の外食産業の経営など、年間150万人が立ち寄る道の駅、キララ多岐の場所は国道が近くマイカー等立ち寄り易い場所で、多岐から望む日本海で夕日が沈む景色は最高、夏は家族連れにも人気で更に遠浅の海である。 キララ多岐から300m東に位置し日本海を一望出来る見晴らしのいい公園には宿泊施設もあり、サウナ付のログハウスも整備されている。</p> <p>山口県 萩、道の駅 しーまーと</p> <p>萩漁港と隣接し活気触れる市場の雰囲気の中、鮮魚や水産加工、更に地元産の野菜等、加工品も多くショッピングの楽しめる場所で、キララ多岐と同様近くには国道、交通の便がいい道の駅 しーまーとである。 夏は萩名物のケンサキイカ、冬場は萩のブランド、フグが中心レストラン街には14店舗～の鮮魚の店など、再度行きたくなる道の駅。 先ず駅長の頑張り、公募で入社された若き女性の取り組みが見本になる すべて一人で情報発信されていた。</p> <p>島根県雲南市 小規模多機能自治組織の性格 <input type="checkbox"/> 地域の自治、 地域内の事を(自ら考え、決定、実行)する組織。 地域主体で公共の福祉を担っている、行政とも協働で住みよい地域の形成をつくる。 <input type="checkbox"/> 公域化の一方の現在、地方分権型社会の推進 <input type="checkbox"/> 人口減少、少子高齢化社会の到来で今後のコミュニティの強化が必要 (しかしコミュニティ機能が低下し、様々な問題が) <input type="checkbox"/> 多くの自治体で発生している問題は生活基盤</p>	

	<p>所 感</p>	<p>(集会所、公民館等の維持が困難、住宅の荒廃、老朽家屋の増加、耕作放棄地など多きにわたる)</p> <p>雲南市の地域自治組織は30組織で様々な自主活動が実践されている。</p> <p>主な地域自主組織の事例紹介の中で、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、 安心生活見守り事業 市の水道局との委託契約で、検針機会を利用、毎月全世帯を訪問、声掛け、24時間体制で要介護者の見守りとSOSを受信。 2、 にここ通信事業 組織内の75才以上の一人暮らし高齢者に毎月一回配布する。 (内容は中学2年生が毎月2名ずつで手紙の作成をする、自治会の福祉委員が配布し声掛けによる安否確認をする) 3、 地域内に農産物の直売所、高齢で買い物に行けない人には送迎も。 4、 今後は地域の状況に応じた制度の進化。 <p>道の駅 キララ多岐、萩 しーまーと 両道の駅ともまず立地条件が良い、更に地域の特産を活かした商品、加工品が揃っている、</p> <p>萩 しーまーとは 駅長の情報発信に取り組む姿は見本となる。</p> <p>雲南市は 町として、地域と行政のまちづくりに取り組むこと、変らず同調できる 町としても雲南市の取り組みの中で何が我が町に適しているか、参考にしたい。</p>

平成30年度北栄町議会 委員会行政調査報告書

1	日時	平成30年10月10日～12日 3日間	
2	調査地	島根県出雲市多伎町、山口県萩市、島根県雲南市	
3	調査内容	(内容)	(場所)
		(1) 目的地となる道の駅のありかたについて	道の駅キララ多伎 (島根県出雲市多伎町)
		(2) 目的地となる道の駅のありかたについて	道の駅萩しーまーと (山口県萩市)
		(3) 地域自主組織による課題解決型の住民自治について	島根県雲南市
4	概要及び調査結果	<p>(1) 道の駅キララ多伎 (設置自治体、出雲市)</p> <p>① 外観は北欧フィンランドをイメージした建物でロケーション (日本海を一望できる海辺のリゾート、キララビーチ) といちじくなど地域特産品、海鮮たこやきの販売、ベーカリー、ラーメン工房、カフェ、レストランの経営などの多角経営。様々なイベントも行っている。</p> <p>② 現在出雲市の第3セクターで指定管理者として管理運営を行なっているが平成31年度までに完全民営化になる予定。</p> <p>③ 平成10年に設立 (現在20周年)</p> <p>④ 当初建設費17億2千万 (うち国県補助金1億2千万)</p> <p>⑤ 総面積28,315㎡ (延床面積1,611㎡)</p> <p>⑥ 売上 (平成29年度) 年間2億7千万 (ベーカリーは除く) 経常利益5千万</p> <p>⑦ 年間立ち寄り客数150万人 (レジ45万人)</p> <p>(2) 萩しーまーと</p> <p>① 建物は公設市場をイメージで木造 (無駄に派手にしない～通路は狭い)</p> <p>② 漁協、地元生産者が集結して運営する生産者直売で新鮮、安全な旬の食材を安価で提供</p>	

		<p>③ 調理法や目利きなど食材に関する会話が楽しめる対話販売方式</p> <p>④ 設立—平成 12 年</p> <p>⑤ 準備委員会を経て 1 3 店舗の組合員で構成</p> <p>⑥ 敷地面積 7、420 m² (建物 618.2 m²)</p> <p>⑦ 顧客—県内 6 割 (内市民 4 割)</p> <p>⑧ 売上 9 億 1 千万</p> <p>(3) 小規模多機能自治による住民主体のまちづくりについて 雲南市役所</p> <p>① 雲南市は平成 16 年 11 月に 6 町村で合併</p> <p>② 面積 553.2 k m²</p> <p>③ 人口 39,032 人</p> <p>④ 高齢化率 36.5%</p> <p>⑤ 中山間地域で全域が過疎指定</p> <p>⑥ 小規模多機能自治による住民主体のまちづくりの取り組み</p> <p>：雲南市をまるごとブランド化 (地域に誇り、愛着をもつ)</p> <p>：概ね小学校区 (4 つに分かれている所もある) に協働の仕組み作り (全域対象)</p> <p>：人口の現状と将来見通し～参画、協働型、</p> <p>：しくみ—全地域が活発化</p> <p>：地域自治で—課題解決を</p> <p>：組織形成—事務局体制の確立、住民アンケート調査</p> <p>：あり方—市民委員会～8 年後に廃止</p> <p>：一人ひとりが参加 (中学生以上)</p> <p>：自治会 503 (細かく設定)</p> <p>：様々な団体が小学校区域で組織=30</p> <p>：1 年半かけて組織作り地域の状況に応じた制度</p> <p>：過疎債と自主財源による</p>
--	--	---

5	所 感	<p>(1) (2) では</p> <ul style="list-style-type: none"> *まず道の駅経営に熟知した人による準備委員会を設置し十分な話し合いを行い、現実にあった道の駅を考える。 *北条道の駅設置に当たっては明確なコンセプトを掲げ目的に沿ったもの（内容は北栄町の特産品、コナンにちなんだものなどを活用）。 *道の駅運営に関しては全国公募し経営のノウハウが解った人に任すべき（視察先二か所とも公設で民間が主体となって管理運営を行っている）：行政では経営はできないとのこと。 *施設設置においては国、県の補助金を活用し持続可能な（萩一まーとは18年間店舗の入替なし）規模、内容にする。 *二か所とも大変重要な役割を果たしているキーマンがおられた。北栄町にも知識と経験豊富なキーマンが必要。 <p>(3) 雲南市では</p> <ul style="list-style-type: none"> *住民と行政は対等な立場である *相互の役割を明確にする *情報共有・協議の場を設ける <p>などの基本協定書がある。北栄町がこの「小規模多機能自治」について本気で取り組むのなら「住民自治の仕組み」について理解し地域自主組織の立ち上げから始めるべき。</p>
---	-----	---

平成30年度北栄町議会 委員会行政調査報告書

1	日 時	平成30年10月10日～12日 3日間	
2	調 査 地	島根県出雲市多伎町、山口県萩市、島根県雲南市	
3	調査内容	(内 容)	(場 所)
		(1) 目的地となる道の駅のありかたについて	道の駅キララ多伎 (島根県出雲市多伎町)
		(2) 目的地となる道の駅のありかたについて	道の駅萩シーマー と(山口県萩市)
		(3) 地域自主組織による課題解決型の住民自治について	島根県雲南市
4	概要及び調査結果	<p>(1)道の駅キララ多伎 施設の概要 平成10年4月設立、建設費17億2900万円(うち国県の補助金は1億2100万円) 総面積28,315平米 国土交通省(トイレ、休憩・情報コーナー)6,075平米、出雲市(22,240平米) 駐車場167台、大型車8台 現在は出雲市の第3セクターであるが、平成31年度中には出雲市の株を買い取り、民間となる予定。</p> <p>施設の特長 多伎町時代より姉妹縁組を結んでいる「フィンランド・カラヨキ市」北欧をイメージし、外観は北欧・バルト海をイメージした建物となった。 すぐ裏が日本海でロケーションが良く、海のない所の人感激する。イルカが見える。夏は海水浴ができる。夕日がきれい。この地がキラキラ輝くようにと名付けられた。 施設利用者の出発地は、島根県内が約4割、他県6割。 主な目的地は出雲市及び松江市の市街地に集中し、浜田方面の主要観光地への立ち寄りもある。広島県からのお客も多い。</p>	

利用客数と年間売上

年間約45万人の利用者(トイレ利用者を含む全体利用者は150万人)

売上は年間4億4千万円。主力商品は、「多伎いちじく」を使ったジャムなどのいちじく商品。特産のいちじくを使ったソフトクリームや海鮮たこやきは特に人気で、昨年は62百万円の売り上げた。また、キララベーカリーではいちじくを使ったパンなど1億1千万円の売り上げがあった。

駅長人事

現在取締役常務の小林さんは元(株)イオン出身。20年間駅長と支配人兼務。開店時職員8名でそのうちイオン出身は6名。基本構想は多伎町で設定され、開業4か月前より開店準備、実質3か月でコンサルには引いていただき、企画立案を再度行い、開業に至った。

PR方法

山陰放送の天気情報組でのPR。広島県側の道の駅「尾道・松江沿線ネットワーク会議」の活用。広島県側「広島県観光協会」とのイベント。島根県道の駅交流会との連盟イベント。

(2)道の駅萩しーまーと

施設の概要

設立 平成13年

敷地面積 7420㎡ 建物面積 1424㎡

構造 杉丸太木材による木造 店舗数 17店舗

駐車場 普通車250台・大型車7台

消費者施設 セミナールーム(スタジオキッチン)

5億円のうち国・県が半分出資、残りは組合員が一人350万から500万円出資

施設の特長

経営理念「近者悦 遠者来」地元のお客様が利用してくれる来やすい店

すぐ裏は日本海で漁港がある。漁港直結で輸送コストはゼロ。しかも中間流通を介さず生産者直売なので、新鮮・安全。

年間9億円の売り上げ、利用客130万人

利用客は県内6割、県外は広島、福岡、島根から。

萩産の魚は7, 8割 雑魚でも試食してもらったりして、購

入につなげていく。キンタロウがブランド化で高値になった。
毎週金曜日 9時から地元の人のために朝市を開いている。
毎月 1 回一般の方対象に魚のさばき方教室を開催

駅長人事

建設時は経営ができる人を全国公募した。現在の方は観光協会から職員になられた。40歳代でとてもバイタリティにあふれた女性のかただった。

PR方法

毎週魚をPRする企画番組があったので、萩から魚を持って行き出演した。6年間続けた。あらゆるメディアであまりお金をかけず発信。

(3)雲南市の取り組み

平成16年11月1日に 6町村が合併した。面積553.2キロ㎡人口3万9千人 高齢化率36.5%
中山間地域で全域が過疎指定

合併時に約4万4千人あった人口が、10年後の平成36年には3万6千人まで減少することが予想されている。合併後に新しい住民自治のしくみとして市内全域に発足した地域自主組織を中心に、安心して住める地域作りを展開している。

小規模多機能自治組織と自治会との違い

より広域的な区域—自治会等の区域

ひとりひとりが中心—世帯主が中心

行事よりも活動多い—活動よりも慣習的行事が多い

常勤スタッフ体制がある—ない

この取組はまだ、北栄町では取り組まれていない。

全住民アンケートから始まり、何に困っていて、何に取り組むかの話し合いから始まる。それぞれテーマを決め活動されている。

・市水道局との委託契約で検針を利用し、毎月、全世帯を訪問、声掛けをされている鍋山地区

・笑んがわ市では、産直市+サロン機能を持つ。憩のコーナーは、200円を支払えばだれでも飲食が可能で、地域内外の人たちの楽しい交流の場となっている

		<p>・新市いきいき会では住民福祉カードを作成。どんな人が暮らしているのかすべて記入してある。毎年4月に更新されている。地域住民の理解を得て作成している。</p> <p>地域同士の学び合い・高め合いの場として地域自主組織取り組み発表会が年3回開催され、自慢大会の場となっている。</p> <p>全国に小規模多機能自治推進ネットワークがあり、情報交換されている。</p>
5	所感	<p>(1)(2)2つの道の駅とも、駅長さんは公募で、民間から来られ、数字を出しておられた。ここに来なければ、あじあうことのできない景色や特産物があった。</p> <p>建物を斬新にしているキララ多伎、1階建てで公設市場のようになっている萩しーまーとそれぞれに特色を感じた。</p> <p>また、観光客はもとより、地元の方に愛されている(地元も大事にしている)道の駅であった。</p> <p>北条道の駅に置き換えたとき、どんな店がはいるのだろうか。全国チェーンの店にお願いするのもいいだろうし、鳥取牛やパンをメインにしてはどうか。</p> <p>PRは話題づくりをしながら、ラジオやテレビを利用することが大事だと感じた。</p> <p>(3)雲南市の小規模多機能自治による住民主体のまちづくりはまだ、将来のことに思えあまり理解できなかった。どこから手をつけていいのか、今後、議員が何処まで介入していくのか。しかし、ひとつひとつの地域が身近で、住民が困っていることに目をやり、解決されていることは評価できた。</p>

提出〆切 平成30年11月1日

北栄町議会議長 飯田正征 様

北栄町議会 民生経済常任委員会委員 飯田正征

平成30年度北栄町議会 委員会行政調査報告書

1	日時	平成30年10月10日～12日 3日間	
2	調査地	島根県出雲市多伎町、山口県萩市、島根県雲南市	
3	調査内容	(内容)	(場所)
		(1) 目的地となる道の駅のありかたについて	道の駅キララ多伎 (島根県出雲市多伎町)
		(2) 目的地となる道の駅のありかたについて	道の駅萩しーまーと (山口県萩市)
		(3) 地域自主組織による課題解決型の住民自治について	島根県雲南市
4	概要及び調査結果	<p>(1)について</p> <p>○(株)イオンより駅長と支配人兼務は民間より登用。 開店時には8名で開店、そのうち6名がイオン出身 基本構想は多伎町で設定され、開業4か月前より開店準備、 実質3か月でコンサルには引いていただき、企画立案を再度 行い開業。 社員教育についてはイオン人事本部の協力を得た。 代表取締役は町役場OBであり、現在5代目。</p> <p>○PR方法 山陰放送・中央新報社・インホメーション・SNS・ホームページの活用し、イベントや新商品などの情報提供している。</p> <p>○販売品 イチジクソフトクリーム・海鮮たこやき・いちじく製菓・干しいちじく・ジャム・その他出雲銘菓・海産物等</p> <p>○食事処 レストラン・ベーカリー・ラーメン工房</p> <p>○景観 道の駅の下にビーチがあり夏は海水浴客でにぎわっている。 日本海に沈む夕日の景色は、「日本の夕日百選」に選ばれている</p>	

		<p>(2)について</p> <ul style="list-style-type: none">○目的 地元市民を中心とした庶民市場を目指す。(売り手、買い手、生産者と3者よし)○運営 行政が運営する組合を公募。駅長も公募で経営の分かる人。○販売方法 対面販売と試食販売。 50, 60代をターゲットに1・2人用のミニパックを地元の業者に少量の加工。 平日の朝に地元の人を対象に朝市。○PR方法 NHKテレビ放送・新聞等に他では実施していないイベント、料理のレシピ、魚情報など。 <p>(3)について</p> <ul style="list-style-type: none">○小規模多機能自治による受民主体のまちづくりを行っている。○特徴 市民一人ひとりの力を発揮する仕組み。 自治の原点を取り戻す仕組み。 参加だけではなく、参画につながる仕組み。 自治体内分権の仕組み。 人口減、少子高齢化にも対応する仕組み。○性格 地域のことを考え、決定し実行する組織。 実行するのは組織主体もあれば、組織内の機関団体の場合もある。 地域主体で公共の福祉を担っており、行政も協働し、住みよい地域の形成を図っている。
--	--	---

4	概要及び 調査結果	

5	所 感	<p>(1)について</p> <p>○駅長は民間より登用している、しかし代表取締役は役場 OBで行っているが、すべて応募により実施する方が良い。</p> <p>○ベーカリー・ラーメン店・レストランは、食を選ぶには品数が豊富で良い。</p> <p>○地元の特産品のいちじく生果が、今年は不作で販売していないし、野菜類も全くない。 北栄町には、野菜・果物・生花等品が豊富でなので、中部地域の製菓や加工品を取り揃えて販売したらと考える。</p> <p>○道の駅多伎は海水浴とのセットで楽しんでいるが、本町もオートキャンプ場と公園の整備を行えば多くの人を訪れると考える。</p> <p>(2)について</p> <p>道の駅の隣に魚市場があり、魚・海産物を中心に営業している。 魚・海産物をメインに販売していても利益が上がっている。 本町も野菜果物をメインにしてはと考える。</p> <p>(3)について</p> <p>地域自主組織の法人化や人材育成確保など活動基盤の充実強化を図り、地域課題の解決に向けた住民主体の活動を行っている。 行政の呼びかけで、自主組織は2年間で全地域できた。 本町においても小規模ながら様々な機能を持った住民自治の仕組みを取り入れてはと考える。</p>
---	-----	---

提出〆切 平成30年11月1日